

知事記者会見の概要

日 時：令和5年3月23日(木) 10:00～10:32

場 所：502会議室

出席記者：13名、テレビカメラ5台

1 記者会見の概要

広報広聴推進課長開会の後、代表・フリー質問があり、知事が答えて閉会した。

2 質疑応答の項目

代表質問

- (1) 新型コロナの感染症法上の分類の見直しについて

フリー質問

- (1) WBCでの中野拓夢選手の活躍について
- (2) モンテディオ山形のホーム開幕戦の観戦について
- (3) マスクの着用について
- (4) 酒田市・遊佐町沖の洋上風力発電について
- (5) 県議会議員選挙への対応について

<幹事社：毎日・産経・YBC>

☆報告事項

知事

皆さん、おはようございます。

まず、WBC です。侍ジャパン、日本が1位になりました。本当に嬉しい限りです。日本中が歓喜に沸いたと思います。本当におめでとうございます。

その中で、本県出身の中野拓夢選手も大活躍してくれました。これもうれしい限りです。県民の皆さんも誇らしく思ったと思いますし、多くの県民に勇気と感動を与えてくれました。心からお礼を申し上げたいと思います。そして、ますますこれからも活躍していただきたいというふうに思っております。

それから、ようやく山形県も春めいてまいりました。春から初夏の観光誘客を図るため、「山形春夏の観光キャンペーン」を、4月1日から7月17日まで実施いたします。

キャンペーンの特徴的な取組みとしましては、桜をはじめ県内各地の花の名所や春ならではの体験などを紹介する特設サイトを開設して情報発信を行います。また、さくらんぼなど旬のフルーツを使った特別なパフェなどを午前中に提供する「朝パフェやまがたキャンペーン」などを実施してまいります。

それから、宿泊・日帰り旅行が割引になる「全国旅行支援～やまがた旅割キャンペーン～」につきましては、ゴールデンウィーク期間を除いて、6月30日まで延長して実施してまいります。

引き続き、「新しい旅のエチケット」をお守りいただきながら、春夏の山形をお楽しみいただきたいと思いますというふうに思っております。

私からは以上です。

☆代表質問

記者

おはようございます。毎日新聞の熊田です。よろしくお願ひします。

私のほうからは、コロナの関係で1点質問させていただきます。新型コロナウイルス感染防止対策で国内では長くやっておりましたマスクの着用についてですけれども、今月の13日をもって基本的に「個人の判断」というような形で、着用をどうするかというのは個人の判断に委ねる形になりました。私も個人的には、コロナになる前から、この季節は花粉症がひどいので、どうしてもこのシーズンはマスクを着けてないと仕事にならないような状態ではあったんですけれども、そういった形でマスク着用を継続しているつもりなんですけれども。

これについてですね、今のところ県内の感染状況が前週同日を下回るような形で、落ち着いた形で推移しておりますし、今後、また大きな変動等なければ、感染症の分類の2類から5類の変更というふうなものも視野に入ってきているところだと思うんですけれども、知事、それから県として、県民に向けた感染の再拡大防止とか、それから感染した場合の診療体制

が今後、県内はどうなっていくのか、みたいなどころについてのご所見と現在の見通し等をお伺いしたいと思います。

知事

それでは申し上げます。

全国の新規感染者数ですが、減少傾向が続いております。

県内でも、引き続き減少傾向となっております、病床使用率は最近、1桁で推移をしているところであります。

こうした中、今月13日から、マスクの着用は、個人の主体的な選択を尊重し、個人の判断に委ねることが基本となりました。医療機関や高齢者施設、事業者が感染対策上必要と判断する場合などには、マスクの着用が推奨されるということにもご留意をいただきたいと思っておりますが、個人の意思に反して、マスクの着脱が強いられるということがないように、また、マスクの有無による差別や偏見が生じることがないように、県民の皆様のご理解とご協力をお願いしたいというふうに思います。

マスクでやっぱり差別や偏見が起きないようにするということが、これからは一つ大事なことかなと思っております、これは県で作成しているものです。(補足：知事が、県作成のマスクの着用についてのチラシを提示) 広くネットからも引用してお使いいただけますので、「着けても、外しても、スマイルで！」ということで、着けている人も、着けていない人も、お互いを尊重しましょうということが書いてありますので、とにかく差別・偏見、そういうのは持たないでいただきたいというふうに思っております。

一方で、新型コロナが5月8日から感染症法上の「5類」に移行します。それに伴って、去る3月10日に、政府の対策本部において、医療提供体制等の見直し方針が決定されたところです。

5類移行後の医療提供体制につきましては、原則として季節性インフルエンザ等と同様となることから、幅広い医療機関での診療体制の段階的な確保に向けた方針や目標等を示す「移行計画」というものを、各県が4月中に策定することとされております。

県としましては、県医師会をはじめ、病院や関係機関等と協議を重ねながら、外来及び入院における段階的な診療体制の拡充に向けて準備を進めてまいります。

現在ですね、県内には、インフルエンザを診ている医療機関が730か所ぐらいあると聞いております。5類移行後は、こういった医療機関で外来を受け入れていただくようにしていくということでもあります。

加えまして、感染対策の要でありますワクチン接種、これにつきましては、令和5年度も公費負担での接種となる予定であります。県では実施主体の市町村に対して適時適切な情報を提供し、引き続き円滑なワクチン接種に取り組んでまいります。

こうした5類移行に向けた対応につきましては、4月中に危機対策本部員会議を開催して、協議・決定することとしております。また同時に、県民の皆様には、県のホームページ

や SNS などを活用して分かりやすくお知らせをしまいたいというふうに考えておりません。

これから進学や就職などで人の移動が盛んになるシーズンになります。感染の再拡大も懸念されます。まだ 5 類になったわけではございませんので、県民の皆様には、引き続き、換気の励行や、ゼロ密、こまめな手洗い、消毒などの基本的な感染対策を徹底して下さるようお願いいたします。

記者

ありがとうございます。

関連してですね、これから厚労省からとかも通達等もあると思いますし、県のほうでも検討すると思うんですけども、例えば、現在の感染した場合の連絡体制とか、それから、山形県では罹った方の後遺症の調査等も継続して行われていると思います。それから、行政として、コロナのベッド数を確保しているような体制をお取りになってはいますが、5 類になることによって、そういう体制っていうのもかなり変わってくるのでしょうか。

知事

はい、変わってくると思います。分かりやすいところから言っていきますと、宿泊療養施設、食料支援もやっておりますけれども、食料支援と、この宿泊療養施設は、事業を終了することとされておりますので、それは終了となります。

こと細かい医療機関のほうのベッド数、病院のですね、そういったことについては、4 月の移行計画の時に段階的ということですから、その時に詳細に策定することになるかと思えます。

記者

ありがとうございました。以上です。

☆フリー質問

記者

共同通信、阪口です。お世話様です。

冒頭で WBC のことについてコメントされたと思いますけれども、先日の県議会のほうでも、議員のほうからですね、中野選手に対して、いろんな対応をしてもいいんじゃないかというような、スポーツ大賞であるとか、県民栄誉賞であるとかという話も出ていたのですが、今現在検討している段階がございましたら教えてください。

知事

はい。教育委員会の所管だと思いますけれども、関係部局で今検討しているところだと

いうふうに聞いているところです。

記者

まだ、おっしゃられることはないですか。

知事

そうですね。いろいろな賞がありますので、どれに該当するかということで、今検討しているのではないかなと思います。

記者

では、賞は何らか授与されるような方向という意識でいいですか。

知事

たぶん、そうなるんじゃないかなと思います。

記者

分かりました、ありがとうございます。

それと、知事、昨日の決勝の観戦なんかはどちらでされていたのかなと思ひまして。

知事

公務に邁進しておりましたので、残念ながら観戦はしていなかったんですけども、都度都度ですね、どうなったかなということをスマホで検索したりしながら、ちょっと休みの合間合間に見ておりました。

記者

ありがとうございます。

もう1点、スポーツ関連で言うと、モンテディオ山形の開幕戦のほうですかね。久しぶりに知事、観戦されたと思いますけれども、残念ながら敗戦という結果になってしまいましたけれども、久しぶりに生で観戦されてどのようなご感想をお持ちになったとかありますか。

知事

そうですね。本当に屋外で声を出しても良いというふうなことになって、本当にサポーターの皆さんが大変大きな声で応援をしていたというのは、見ていると本当に気持ちのいいことだなと思いました。勝負は残念ながら敗れてしまいましたけれども、でも、本当に惜しい場面がたくさんあったと思いますし、これをバネにですね、次回は勝っていただき

たいというふうに思っています。

ずいぶん久しぶりに私も参りましたけれど、ホーム開幕戦ということで、大変盛り上がったと思います。ほとんどの席が埋まっております、モンテ側のほうの応援席ですけど、1万2千人近くの方が入っております、青く染まっております。相手チームもブルーがカラーだったんですけども、でも本当にモンテのサポーターが大変盛り上がっていたなと思いますし、始まったばかりですので、これからどんどん勝ち進んでいただきたいなというふうに思いました。

あれだけ多くの方がやはり、声を上げてですね、応援するというのは、大変気持ちのいいものでありますし、また、敷地内でたくさんのお店がですね、屋台と言うのでしょうか、お店が出ていて、それも大変賑わっております。やはりスポーツというのはいろいろな意味で盛り上げてくれるものなんだなと。地域経済活性化にもつながるなということもさらに実感してきたところです。

これからも皆でしっかり応援していきたいというふうに思っています。

記者

ありがとうございます。それと、山形にしては相当早いと思いますけれども、桜のたよりもそろそろ聞こえてきそうな時期になってきている最近の暖かさですけども。今年の花見ですね、もうマスクの着用は個人の判断に任せるというふうな話になっていきますけれども、お花見に対してどのようなお気持ちを持っていらっしゃるのか、自粛ということはないと思うのですけれども、その辺の話を伺えればなと。

知事

そうですね。今年は早くなりそうですけれども、やはり長い冬を越えて、そして春の喜びというのは格別なものがありますし、桜の花見をするという、これは本当に日本人特有の風情というのでしょうか、これをですね、コロナで3年もやはり我慢していたと言いますか、マスクをして、たぶん観ておられたかなと思いますけど、今年は山形市も観桜会を実行するということを最近お聞きしました。皆さんやはり楽しみにしておられますので、心ゆくまで楽しんでいただければなというふうに私は思っております。

屋外でありますし、そんなに近くというか、密集ということにもあまりならないんじゃないかと思っておりますので、自然体で楽しんでいただけるのではないかなというふうに思っています。

記者

今のお話、モンテの話もそうですけれども、マスク着用がなくなってからも、先程毎日新聞さんからもありましたけれども、まだマスクをしている人も花粉症の関係で多いよというような話がありましたが、変化というのは肌感覚で、知事はどのようにお考えでしょ

うか。

知事

そうですね。思ったよりもマスクをしていらっしゃる方が多いなというふうに見えています。花粉症の方も結構多いんじゃないかなと思うんですね。それから寒暖の差がちょっと最近ありましたので、ちょっと風邪気味の方もいらっしゃるし、そういうこともあってマスクが多いのかなとも思っていますけれども、ただやはり5類に移行したわけではありませんので、お互いの安心感に自分だけじゃなくて、相手の方に対しても安心感を与えるという、そういう心情もあってマスクの方が多いのかなというふうに私は捉えております。

いろいろな会議とかですね、イベント、屋内に関していうと、マスクは大変多いというふうに思いますが、まだ5類に移行したわけではないので、やはり、屋内ではマスクの場面が結構多いのかなというふうに感じています。それはそれで個人の判断の結果だろうというふうに見ておりますので、屋外では案外はずしても大丈夫な場面がかなりあるのではないかと思っていますが、やはり屋内でお客さんがいらした時、私もマスクを着けて対応します。ですが、知事室の（飛沫防止用の）アクリル板は取りました、ということで、少しずつ段階的に対応していくかなというふうに思っています。

記者

ありがとうございます。

記者

産経新聞の柏崎です。

洋上風力発電でお尋ねします。山形県は（令和5年）4月から組織改正されて洋上風力発電推進というお立場であると思うのですが、記者会見でそうおっしゃっていましたが、以前、この記者会見場で出羽三山と宮城県にまたがる蔵王山麓での、これは陸上なのですが、陸上の風力発電の場合は知事自身が明確にこの場で反対の意思を示されました。皆さん覚えていると思うのですが。これは住民の意思というよりは知事のお考えということで反対の意思を示されたと思うのですが、一方で、遊佐とか酒田で計画があります洋上風力発電については、賛成というか推進の立場に山形県はあると。この違いについて教えてほしいのですが、つまり、住民の意思とか地元の首長さんとかが賛成ですというお立場を受けて、県の立場とすれば国、経済産業省に意見書を出す形なのですが、山形県としての考えを教えていただきたい。違いでもいいのですが。

知事

違いについてですか。そうですね、やはり出羽三山とかですね、この間の鶴岡市の大山の

ところもあったし、あと、蔵王でもそのようなことがありましたね。

そういうところではやはり歴史的な景観でありますとか、自然を守らなければいけないというようなところですか、そういった大切な観光地といったところについてはですね、地元の皆さんのお考えもお聞きしながらでしたけれども、私としてやはりそれはいかななものかということで申し上げたところでもあります。

洋上風力につきましては、海の風を活用しての風力ということで、再生可能エネルギーの成果がかなり大きく出るのではないかというふうに思っておりますし、やはり島国日本としての海の活用、海風の活用というのは非常に大切なことではないかというふうに思っております。再エネの中で洋上風力は大変大きな力を発揮してくれるものと捉えておりますので、酒田港にとりましても、また遊佐にとりましても、賛成というような立場でですね、推進していきたいと、もちろん地元の市長さん、町長さんもそういう意向でおられますし、県としてもそういう姿勢で臨んでいるところです。

記者

ありがとうございます。ただ、知事の立場で、公開質問状が出ていたと思うのですが、ご存じですか。知事宛の公開質問状が出ていたと思うのですが。

知事

私宛の公開質問状ですか。

記者

ええ。そうです。見ていらっしゃらないですか。見ていらっしゃらないんですね。ただ、知事のお名前で、ちゃんと住民が出されたものに対してお答えになっているのですよ。担当部署が書いただけなんですね。

知事

いや、はっきりとその内容までは覚えておりませんが、私の名前を出してあるのであれば、私も多分一度は見ているのではないかというふうに思います。

記者

いわゆるどこの場所にできるかという話なわけですから、海の上だとしても住民の合意形成というのが必要なわけですね。賛成かどうかということで。山形県とすれば、それはもうすでに得ていると思っていられるのでしょうか。

知事

洋上風力に関してですか。

記者

ええ、そうです。

知事

洋上風力に関して、そうですね、どこまできちんとというところまではわかりませんが、大体の合意は得られているのではないかとこのように思っております。

記者

合意が得られているから進めているんだというお考えですか。住民の合意を得ているから進めているんだというお考えでよろしいわけですか。

知事

いや、住民の皆さんのお一人お一人のところまではちょっとわからないですけども、その代表者とかですね、その首長さんとかそういうところでやはり対応しておられるのかなと思っております。

記者

地元で法定協議会なるものができて、いろんな漁業関係者とか、役所の人が入っているわけですよ。ただ、一般住民の人たちがなかなか意見を出せないような状態であるわけですね。それで先日、僕も行ってきたんですけど、住民説明会というのがありまして、県の職員の人も参加して、そこに行ったところ、反対の立場と言うかな、再生可能エネルギーは賛成しているんですよ。それは同じ立場だと思うんですけども、ただその手法というか、やり方ですね。住民の合意を得るやり方が納得いかないという意見が多々ありまして、例えば海岸から、ジオパークのあるところなんですけど、1キロ先から5キロまでという離岸距離という問題があるんですよ。そうすると、低周波の問題とかいろいろあるし、かつ、鮭の孵化場とかあるわけですね、遊佐町とかに。そういうところに鮭が入ってくるんだらうかというそういう心配もあったりして、これはどうやっても試験なんかできない問題であるとは思いますが、それ以外にもいろいろ問題があるわけですね。そういうことに対しては住民の合意形成ができていないような意見が多かったんです。だからそういったものを踏まえた上で知事はどうお考えなのかというのをお尋ねしたいのです。

知事

大変具体的なところでありますので、環境エネルギー部から確認をして、しっかりお聞きをしてお答えしたいというふうに思います。

記者

知事さんは実際に公開質問状に答えていらっしゃるんですよ。それ、見ていらっしゃるな
いということですね。よくわかりました。ご自身の名前で書いていらっしゃるんですよ。吉
村美栄子知事という名前で。ですからもうちょっとしっかり住民の意見を聞いてあげてい
ただきたいと思っているのですが、いかがでしょうか。

知事

はい、できる限りお聞きをしながら、対応しながら進めていければというふうに思ってい
ますが、まず詳細なところを環境エネルギー部に聞いてみたいと思います。

記者

わかりました。ありがとうございます。

記者

NHKの桐山と申します。よろしくお願ひします。

来月9日投開票が行われる県議選に関してなのですが、知事はこれまで参議院選挙、
そして衆議院選挙と、お世話になった方への恩返しということで協力をしていくのが政治
家としての信条だとおっしゃってまいりましたが、今回の県議選に当たって、いわゆるその
恩返し、具体的に何か行動を取られたりとか、そういった予定はあるのでしょうか。

また、あるとしたらどういった方、例えば、いわゆる県議会の県政クラブ、多分県政与党
の立場になるかと思うのですが、そういった方たちに対する支援なのかどうなのか、そ
ういったところを教えていただければと思います。

知事

はい。4月が近づいておりますけれども、県議会選挙のですね、投票日も近づいていると
いうことでありまして、これまで私は恩返しということで行動してまいりましたけれども、
県政クラブの皆さんには、ご要望があつて、そして私の日程がそれにもし応えられるとい
うようなことで調整できるのであれば、県政報告会というようなところに、これまでです
ね、行って挨拶をしてきました。

ですけれども、今の時点で、まさに選挙に突入してからどういうふうに行動するかとい
うところまではですね、まだ今のところ考えが至っていないところです。まず目の前の公
務に邁進したいというふうに思っています。

記者

今回、候補者の中にはかつて知事の秘書を務められた方もいらっしゃると思います。そ
うした新人の方たちも含めて、今のところは何も決めていないということではよろしいで
しょ

うか。

知事

そうですね。候補者の中でも特定の人に言及することはちょっと控えさせていただきたいと思いますし、それも含めてということで結構です。

記者

承知いたしました。ありがとうございます。